



2023年3月期 第1四半期

(2022年4月1日 ~ 2022年6月30日)

決算説明資料

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証プライム 証券コード:6928

- 売上高の増加 …パワー半導体用リードフレームの需要増加に加えて原材料価格高騰の売価への転嫁が進んだことと、円安の進行による海外子会社の円換算額の増加等の影響
- 営業利益の減少…前年同四半期に前倒し需要が発生したスマートフォン向け部品の本格量産が例年のサイクルに戻ったことや、出荷コストの上昇等による販売管理費の増加等の影響
- 為替差益の増加…急激な円安による増加

	2022/3期 1Q		2023/3期 1Q		期比較	
	実績(百万円)	売上比(%)	実績(百万円)	売上比(%)	前年同期比(%)	売上比増減(pt)
売上高	6,866	100.0	7,243	100.0	+5.5	-
売上総利益	1,196	17.4	1,155	16.0	△3.4	△1.5
販管費	553	8.1	619	8.5	+11.9	+0.5
営業利益	643	9.4	536	7.4	△16.6	△2.0
為替差損益	△11	-	84	-	-	-
経常利益	639	9.3	638	8.8	△0.3	△0.5
四半期純利益	482	7.0	431	6.0	△10.5	△1.1
1株当たり 四半期純利益	71.69円	-	64.66円	-		

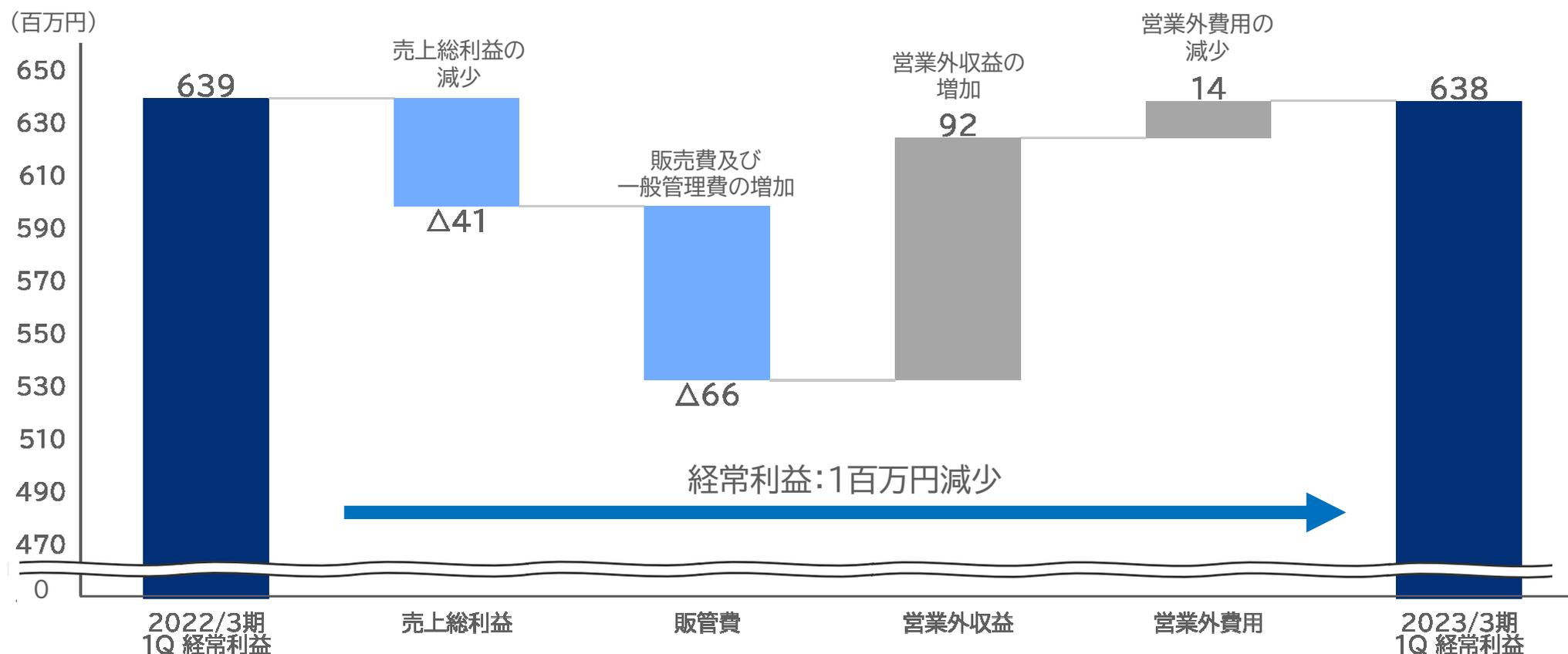
- 当期の新製品などに向けた受注が本格化しつつあり前4Qと比べて受注は増加
- 前4Q比では、売上高は10.7%、営業利益は42.2%の増加
- 当期前半は新型コロナウイルス感染症及び地政学的リスクの影響から一部でサプライチェーンの状況に不透明感

単位:百万円	2022/3期					2023/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前4Q比
売上高	6,866	6,848	6,992	6,543	27,250	7,243	+10.7
売上総利益	1,196	1,086	1,143	1,035	4,462	1,155	+11.6
販管費	553	579	659	657	2,449	619	△5.8
営業利益	643	507	483	377	2,012	536	+42.2
為替差損益	△11	7	20	19	34	84	+342.1
経常利益	639	526	538	349	2,054	638	+82.8
四半期純利益	482	365	372	324	1,545	431	+33.0

- 用途を明確化するため、従来の「IC・トランジスタ用リードフレーム」を「**パワー半導体用リードフレーム**」に名称変更
- パワー半導体の需要は変わらず高水準だが、サプライチェーンの混乱などにより一部の部品出荷が不安定に
- オプト用リードフレームは交通インフラ、ディスプレイ、自動車向けのLEDなどの需要増加も、同じく不安定な状況
- コネクタ用部品は今秋発売予定の当期モデルのスマートフォン向け出荷開始。ウェアラブル端末向け復調、車載向け堅調

の単位:百万円	2022/3期					2023/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比
パワー半導体用 リードフレーム	2,380	2,288	2,614	2,646	9,929	2,684	+12.7%
オプト用 リードフレーム	969	921	878	918	3,686	1,008	+4.0%
コネクタ用部品	3,320	3,440	3,353	2,840	12,955	3,408	+2.6%
その他	195	198	145	141	679	143	△26.8%
合計	6,866	6,848	6,992	6,545	27,250	7,243	+5.5%

- 売上総利益の減少 … 前年同期に、コネクタ部品を中心に前倒し需要が発生していた影響とパワー半導体用リードフレームの増加による製品構成の変化
- 販売費及び一般管理費の増加 … ①出荷量の増加と副資材の値上がりによる荷造費の増加
②増員等による人件費、出張の再開等による営業活動費用の増加
- 営業外利益の増加 … 為替差益の増加等



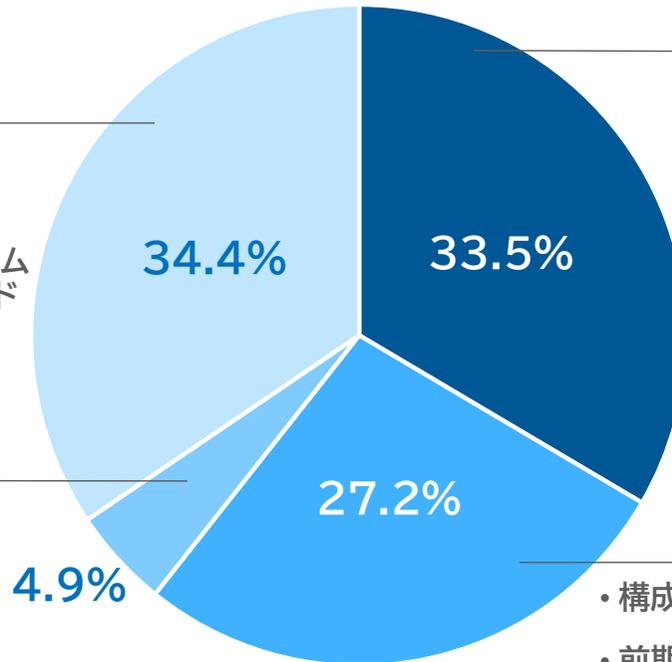
- ・ パワー半導体用リードフレームの需要は、各用途において高水準だが、サプライチェーンの混乱が一部出荷に影響
- ・ スマートフォン向けの足下の出荷は予定通り。前期発生の前倒し需要は無く、当期は夏以降に出荷ピークを見込む
- ・ ウェアラブル向けは、市場も成長しており受注は回復

民生・産機・その他

- ・ 構成比は前年同期の36.8%から 2.4pt減少
- ・ 新型コロナウイルス感染症及び地政学的リスクの影響から汎用的用途のパワー半導体用リードフレームや交通インフラ等ディスプレイ向けLED用リードフレームなどの成長が足踏み

ウェアラブル

- ・ 構成比は前年同期の2.7%から 2.2pt増加
- ・ 前年同期の調整局面から脱して需要が増加



車載

- ・ 構成比は前年同期の30.5%から 3.0pt増加
- ・ サプライチェーンの混乱が一部の出荷に影響も、パワー半導体用リードフレーム、エアバッグ用コネクタ、各種照明向けLED用リードフレーム等の需要は強い

スマートフォン

- ・ 構成比は前年同期の30.0%から 2.8pt減少
- ・ 前期は前半に顕著な前倒し需要が発生
- ・ 当期モデルの出荷が始まり、出荷のピークは年度後半となる見通し

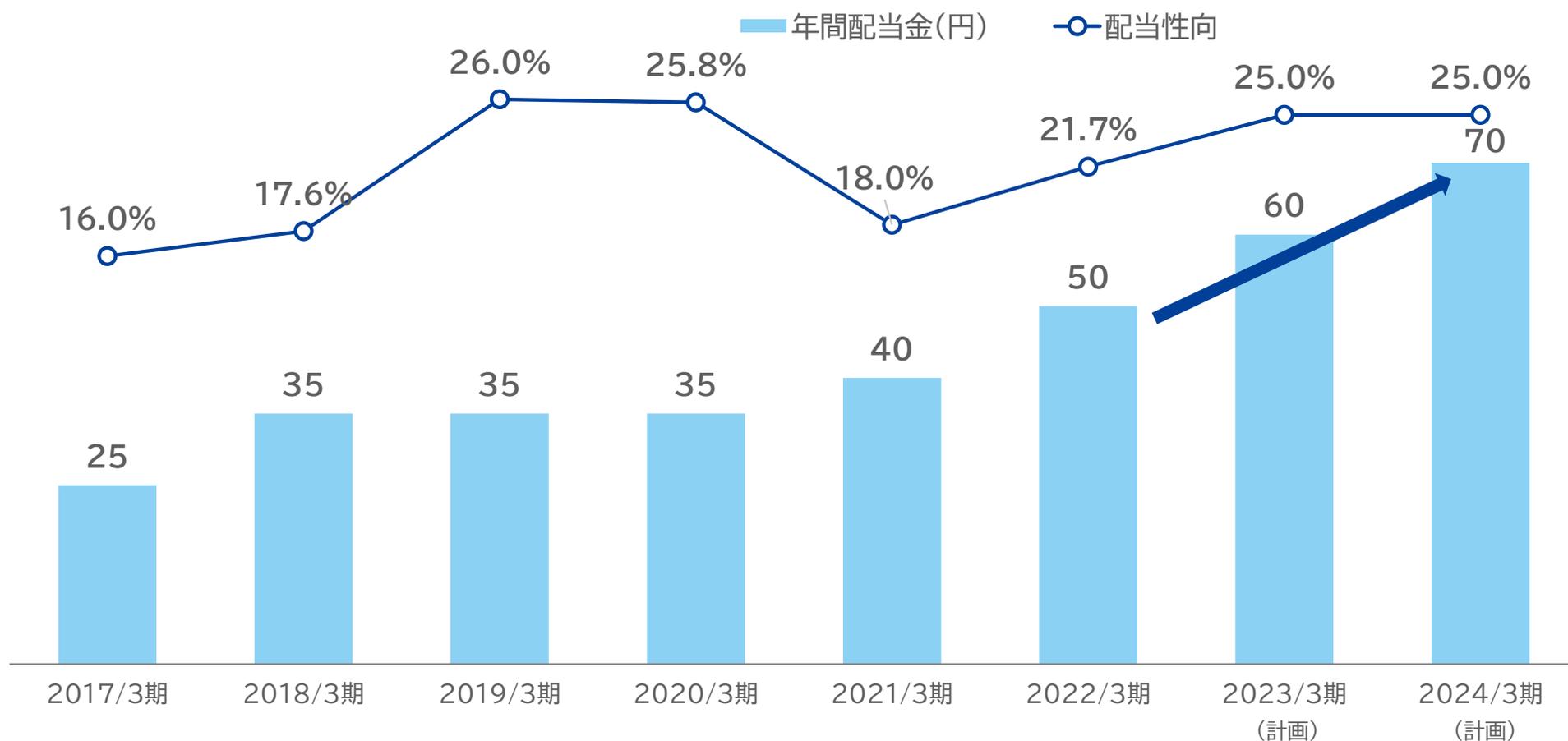
※期初に発表した業績予想から変更なし

- ・ パワー半導体向けを中心とするリードフレームが牽引し、売上高は過去最高の286億円を予想
- ・ 津軽工場増設やパワー半導体用リードフレーム増産等による減価償却費の増加1.5億円を吸収し
営業利益は9%増の22億円、当期純利益も6%増の16.5億円といずれも過去最高を予想

	2022/3期		2023/3期		期比較	
	実績(百万円)	売上比(%)	予想(百万円)	売上比(%)	前年比(%)	売上比増減(pt)
売上高	27,250	100.0	28,600	100.0	+5.0	-
売上総利益	4,462	16.4	4,650	16.3	+4.2	△0.1
販管費	2,449	9.0	2,450	8.6	+0.0	△0.4
営業利益	2,012	7.4	2,200	7.7	+9.3	+0.3
経常利益	2,054	7.5	2,200	7.7	+7.1	+0.2
当期純利益	1,545	5.7	1,650	5.8	+6.8	+0.1
1株当たり純利益	230.5円	-	247.4円	-	-	-

- ビジョン2030 1st STEPでは、津軽工場への投資等もあり、配当性向25%を目途に安定配当を継続
- 配当予想は期初計画を継続、2023年3月期は60円、中計最終年度の24年3月期は70円を計画

配当金・配当性向の推移



注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。